

令和7年6月高浜市議会定例会会議録（第3号）

日 時 令和7年6月11日午前10時

場 所 高浜市議場

議事日程

日程第1 一般質問

本日の会議に付した案件

議事日程のとおり

一般質問者氏名

1. 鈴木勝彦議員 (1) 吉岡市政16年間の総括について
2. 倉田利奈議員 (1) 教育行政について
(2) 吉岡市政16年間について

出席議員

1番	橋本友樹	2番	荒川義孝
3番	神谷直子	4番	杉浦康憲
5番	野々山啓	6番	今原ゆかり
7番	福岡里香	8番	岡田公作
9番	長谷川広昌	10番	北川広人
11番	鈴木勝彦	12番	柴口征寛
13番	倉田利奈	14番	黒川美克

欠席議員

なし

説明のため出席した者

市 長	吉岡初浩
副 市 長	深谷直弘
教 育 長	岡本竜生
企 画 部 長	野口恒夫
総合政策グループリーダー	榊原雅彦
総合政策グループ主幹	原田 優
秘書人事グループリーダー	京極昌彦
DX推進グループリーダー	東 文彦

総務部長	杉浦崇臣
行政グループリーダー	久世直子
財務グループリーダー	平川亮二
市民部長	岡島正明
市民窓口グループリーダー	神谷直子
経済環境グループリーダー	都築真哉
経済環境グループ主幹	神谷英二
税務グループリーダー	西口尚志
福祉部長	竹内正夫
地域福祉グループリーダー	岩崎和也
介護障がいグループリーダー	藤克幸
福祉まるごと相談グループリーダー	野口真樹
健康推進グループリーダー	中川幸紀
こども未来部長	磯村順司
こども育成グループリーダー	板倉宏幸
文化スポーツグループリーダー	鈴木明美
都市政策部長	杉浦睦彦
土木グループリーダー	島口靖
都市計画グループリーダー	村松靖宣
防災防犯グループリーダー	亀井勝彦
上下水道グループリーダー	大村智康
学校経営グループリーダー	清水健
学校経営グループ主幹	小嶋俊明

職務のため出席した議会事務局職員

議会事務局長	内藤克己
主査	森本将史
主事	大岡靖治

議事の経過

○議長（神谷直子） 皆さん、おはようございます。

本日も円滑なる議事の進行に御協力のほど、よろしく願いいたします。

午前10時00分開議

○議長（神谷直子） ただいまの出席議員は全員であります。よって、これより会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付してあります日程表のとおりです。
これより本日の日程に入ります。

○議長（神谷直子） 日程第1 一般質問を行います。

11番、鈴木勝彦議員。一つ、吉岡市政16年間の総括について、以上1問についての質問を許します。

11番、鈴木勝彦議員。

○11番（鈴木勝彦） 皆さん、改めましておはようございます。

議長のお許しをいただきましたので、市政クラブを代表して、吉岡市政16年間の総括について私から最後の一般質問にさせていただきます。

令和7年3月定例会の一般質問で、私は吉岡市長に4期目4年間の市政運営の成果と今後の課題と5期目への展望について伺いました。

答弁では、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続き、事業活動が制限された事業者や困難に直面した子育て世帯への支援へ速やかに支援を実施してきた。また、市制施行50周年記念式典を開催して、50年間高浜市を支えてきた先人たちの思いをこれからの50年をつくっていく世代にしっかりと伝えることができた。子供たちの教育環境の向上を図る必要から長寿命化改良工事を実施して、学校施設の安全を確保するとともに教育環境の改善を図ってきた。しかしながら、財政運営においては、毎年度、多額の財政調整基金を繰り入れるなど基金繰入金の予算計上を余儀なくされ、基金残高が10億円を下回る見込みなど非常に困難な財政運営が続いている。令和7年度に当たって、今後の財政負担も踏まえて、各局に枠配分予算を示すとともに既存事業の見直しなどを行い、将来を見据えた予算を進め、未来につなぐ当初予算を編成することができたものと考えたと答弁をいただきました。

そこで、この4年間で踏まえて、高浜市がどのように成長したと感じているのか。森市長から引き続き、16年間市政を運営してこられたが、市として成長したと感じることは何か、お伺いしたいと思います。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 定例会としてはこれが最後になるのかというふうに思いますが、そういった機会にこういうチャンスをいただきましてありがとうございます。

まず、高浜市の成長についてでございますが、規模、市の規模、数字的に申し上げますと、16年前は4万5,000人ぐらいであったんですね。それが4万9,000人になってきたということで人口規模でいうと9%ほど大きくなり、また世帯でいうと27%、税収でいうと18%ほど伸びてきたというところであります。

また、そういう数字も非常に大事であります、私としては、皆さんのまちへの愛着感だとか、住み続けたいっていうようなそんな思いが少しずつ増えてきているっていうのが一番このまちにとっていいお話ではないかなというふうに思います。

市の財政は確かにおっしゃるように、厳しい4年間のことについても厳しかったというお話を申し上げたし、今年度の予算も厳しい中で、そういう中でありますけど、そういう気持ちを持った方たちが少しずつ増えてきておると。6次の総合計画から7次の総合計画に、新しい計画に入っているわけですが、その総合計画をつくる時に、大家族っていう言葉を入れたいんだというお話を市民の方から伺って、まさにそれがこのまちにとって成長といいますか、まちにとっていいお話になっているんじゃないかなというふうに思います。

○議長（神谷直子） 11番、鈴木議員。

○11番（鈴木勝彦） ありがとうございます。

吉岡市長は、2009年、53歳で市長に立候補され、「アシタのチカラ 未来へ 前へ」、今やるべきことは未来投資、子育てしやすい心豊かなまちへ、みんなが助け合う笑顔あふれるまちへ、安全で安心なまちへ、活気と魅力があふれるまちへ、健全財政と市民サービスの向上へと16年間やってこられました、特にマニフェストを示され、それに向かって行政運営を行われてきたが、特に信念を持って取り組んでこられたことがありましたら、お伺いしたいと思います。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 今、議員おっしゃるように、行政、幅が広いですよ。それぞれにこれはやってかなきゃいかんということはございます。それを絞ってお話するっていうのはなかなか難しいんですが、まず自分が首長になる少し前のお話を申し上げたいなというふうに思います。

議員の当時、まちづくり協議会、南部のまちづくり協議会を立ち上げたそんな時代があります。当時、地域の中の人たちと一緒に南部に初めてまちづくり協議会を高浜で立ち上げようという話がありました。そのときに、実は行政の側も全然右も左も分からないと。そのまち協とは何ぞやと。何をやっていくんだということが分からない中で本当に喧嘩のような、お互いに言っでこうやってくうちにそれぞれが、我々もそうですし、私もそうですし、地域の方もそうですが、まちを何かこう考えてこうっていうそういう機運が生まれたんですよ。職員のほうもそうだと思います。地域を考えなきゃいかんっていうか、皆さんと市民と一緒にいろんなことを考えなきゃいかんという思いはきっと生まれたというふうに思うんですよ。それが、何となく私の16年間の一つが一番大きな底流になっているんじゃないかなというふうに思います。

つまりは、それぞれが自分で考えて地域のことを考えてよくしようという思いは皆さん持っていますので、それを実際に少しずつ表していくといいますかね、活動していく中で。言ってみれば、よく申し上げるんですが、一人称で語れるまちっていうんですけど、それは私のまち高浜がとか、私たちのまち高浜っていうような方たちがこう増えていく、そんなふうになっていくのが私のそ

の16年間、信念を持って取り組むってということの一つの底流だというふうに思います。

一つ、子供の政策、これはいつの時代もそうですけど、自治体のやる政策のど真ん中にいつもあると思いますので、そのお話は少しさせていただきたいと思います。

一つは、御承知のようにもうお話があったように、中学生までの子供の医療費というのは最初の期に無料化をしたんですけど、今年予算でも高校生の入院費までは無料化にする。子供の政策として無償化の政策がどうなのかという話もあるかもしれませんが、まずはその一つはこういう時代にあって大事な話かなというふうに思います。

また、こども園の話。これ待機児童対策も含めてですが、こども園化の話、それから校庭開放の話で、これはまさに民間の事業者の方、それから放課後の子供さんの居場所の関係では、学校の校庭開放をしたりしましたんで、教育委員会にも大変御理解をいただくようなことがなければ、なかなか進められなかったなっていうふうに思ってます。ただ、これはやっていかなきゃいかなんという思いで取り組んできたことは確かであります。

また、障害をお持ちのお子さんが、お母さんたちもそうですけど、日々の中に課題っていうのがあるんですね。そういう課題を、当時もそうですけど、今もそうなんですけど、例えば大府小児にかかろうと思ったら、何か月待ち、下手すれば、1年、2年待ちなんです。そういう状況で日々の課題を解決するには、やはり地域の中に高浜市の中に発達センターをつくるべきではないかなという思いです。ただ、よその大きなまち、例えば豊田市とかね、最近では刈谷や安城とかありますけど、そういうところのようないつも医者さんがいて、いつも専門職の人がいてっていうのは無理なので、高浜らしい発達センターをつくってこうという思いで、以来14年ですね、およそ。同時期に始めた5歳児健診も定着して、本当にきめ細やかに御家庭の支援、それから、実は学校を卒業してもその情報を持ち続けて一貫した支援が受けられるような、情報が一元化できるような仕組みにもなってますし、それから、先生やその学校、園に対しても巡回指導するっていうような非常に細かい、そういう発達センターの活動ができていかなというふうに思います。

それからもう一つは公共施設のことです。これはやったのは平成23年にマネジメント白書っていうのをつくりました。それから、これは管理計画というのは平成28年3月に策定をしておりますので、その後、その策定した管理計画に基づいてこの庁舎もリース方式、これ何でリースにしたんだって様々あるんですが、一つは財調にできるだけ手をつけず、その後も今もやっていますが、それぞれの学校の改修とか建て直し、建て替えとか非常にお金を使うことがあるということで、どういったことが考えられるかっていう考えた中で、そういう形を取らせていただいたということです。細かく申し上げるとたくさん話になってしまいますのでこれ以上申し上げませんが、今は高小もたかぴあとして生まれ変わって、市民の方もあそこで活動しながら子供さんを身近に感じながらいろんな市民活動が行われているという、そんなことが皆さんにも分かっていただけ

るのかなというふうに思います。

○議長（神谷直子） 11番、鈴木議員。

○11番（鈴木勝彦） ありがとうございます。

就任当初から事業仕分け等々、それからいろんな手法を使われてここまでやってこられたと思います。

これからの高浜に、市に期待することについて伺いたいと思いますけれども、先ほどの答弁の中にありましたように、高浜市の人口もそれから世帯数も増加しました。それから、もちろん税収も伸びましたが、今後の課題も本当に山積する中で先を見通すのが非常に難しいことだと思いますけれども、退任に当たりまして、今後どのような高浜市になってほしいなという期待をお伺いしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） これ、私、辞めていく者ですので、ちょっと不遜だなと、あまりそういうことを言うのは不遜かなというふうに思いますけど、こんなまちになったらいいなというものというのは、先ほど申し上げたような、それぞれ皆さんがそういう高浜市への思いを抱いて皆さんが少しずつ地域のこと、それから子供のことを考えていただけるようなまちになっていっていただきたいなというふうな思いは持っております。これは誰がきつと首長になってもそういう思いは持っていただけるというふうに思います。

一番高浜にとって有利だなというものは、やっぱり市域が狭いですよ、13.11。非常に狭い市域で人口も5万人未満でありますので、そのコンパクトであるという利点を生かして、そのコンパクトであるがゆえにできることがたくさんあると思います。そういう可能性を秘めたまちだというふうに思ってますので、それを生かしたまちをつくっていただけるといいなと思います。

一つは、高浜市の高齢化率はまだ19%台ですけど後々は高齢化もしてきますし、狭いといってもやはり交通、いわゆる今までの交通、公共交通の仕組みでは難しかったということでチョイソコたかはまというのを立ち上げましたけど、あれも狭いがゆえに他市とは違ったチョイソコになっているのかなと。企業さんからの御支援もいただけてますし、本当に細かい200メートルぐらいの停留場をば一っと作っても十分やっていけるような仕組みにできたかなと思ってます。

例えばそういうようなことも含めて、地域の皆さんにも御協力を得ながら、そういう皆さんがそれぞれが活躍できるような、その市域の狭さを生かしたまちづくりをして、そういうまちになっていくといいなというふうに思っております。

○議長（神谷直子） 11番、鈴木議員。

○11番（鈴木勝彦） ありがとうございます。

なかなか退任する立場でいろいろおっしゃることは難しいかと思いますが、市民の力、そ

れから地域の力が結集されたまちになるといいなという御答弁をいただいたと思っております。

その一人として、一助に職員が加わることが非常に大事なことだと思っております。まちづくりには欠かせない職員の知識であり、知恵であり、毎年度、職員教育に努められたと思いますが、まちづくりの考えなどを含めて職員にどのように伝わっていると考えているのか、お伺いしたいと思えます。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 私の心情は、多分議員さん、幹事長御承知だというふうに思いますが、あの「May I help you?（メイ アイ ヘルプ ユー）」っていつも言うんですけど、これ職員にどう伝わってるのかなって思うと、多分、言葉どおり、何かお手伝いできることありませんかっていうような意味合いはきちんとくみ取ってもらってるのかなというふうに思えます。これは寄り添って、市民の方に寄り添って、そういう自分から自ら職員のほうからお声かけするような気持ちで仕事をやってほしいなという思いが入ってるんですが、職員の皆さんにとって、その「May I help you?（メイ アイ ヘルプ ユー）」っていう言葉、何かお手伝いすることがありますかっていう言葉が、どちらが主体でまちづくりをしておるかっていうことに結びついておるかというとなかなか難しいかなと。実はそういうことなんです。高浜市自体このまちをどういうふうにつくっていくかっていったときには、やっぱり市民の方がどう考えるか、市民の方の活動を支援する。もう亡くなられました大森先生が協働っていう言葉をよく使うけど、職員、市いわゆる行政に市民が協働するってことはない、そんなことはないんだと。市民の皆様の活動に行政が、職員が協働していくっていう意識を持ってほしいなということをおっしゃられたけど、その「May I help you?（メイ アイ ヘルプ ユー）」の中には実はそういうところがあるというふうに思っています。その辺がきちんと伝わるようにしてきたかという、違う言葉を使ってはやってきたつもりですが、十分であったかどうかは分からないというふうに思えます。

ただ、「May I help you?（メイ アイ ヘルプ ユー）」と言いながらもできないことはありますんで、それはもうできないことはできないし、期間がかかることは期間がかかるということをしっかり伝えていく、そういうことも必要ではないかなというふうに思っています。こんな正面切って職員に向かってこんな話をしたことはないんですよ、実は。聞いておるといふふうに思いますのでお話をしますが、もう一つは、さっきから申し上げているように市民の方がどう考えているかっていうことを、市民の方を信じてもらいたいなと、活動する上では、基本的には、市民の方を信じて自分たちの行動を起こしていけばいいんじゃないかなというふうに思っています。

それから、少しこう余白を残すような提案、もしお話をしていく中で協議をしていく中で出てくるとしたら、行政が丸ごといろんなことを全てやるっていうことが決まっていることではないと

いうふうに思います。これももう退任をされましたが、長久手の市長さん、吉田市長さんが、何もやらないと、行政は全く何もやらないほうが良いというふうにおっしゃいました。それから、遠回りをしたほうが良いと。これ正面から聞いちゃうと何を言っとるんだという話になるんですが、実は大事な話でして、それほど、それも余白どころか真っ白になっちゃいますけど、私はそこまでは言いませんけど、その余白を残した、隙間を残した提案であったり、お話し合いをしていく。その中でまたその状況が変わったりだとかしたときに、そこにその余白の大事さというか、出てくるのかなと。特にまち協みたいなのつくってますから、高浜は。そういう意味では地域のことは地域にお任せするっていうような部分もありますので、余白をつくる大事さっていうのを伝えていきたいなというふうに思います。

それからもう一つだけ申し上げますと、自分自身が製造業の出身なんですよね。製造業というとまさにその現場、ものづくりですから、その現地、現物見ないと仕事ができないっていうことがあって、これも常にお話をしてきました。よく以前、職員と話をするとき、現場っていうと、市長、現場が分かってないとか言われたことがあります。その現場っていうのは、職員にとっての現場は自分の職場なんですよ。自分の職場の中のこと。で、我々にとって現場は、やっぱりまちの中です。だから現場のことをやはりしっかり自分の目で見て、お互いにお話をしながらいろんなことを進めていただけるといいなというふうに思います。それはもちろんスピード感を持って。スピード感を持ってって言いますが、ときには、さっきお話したように遠回りをするとかじっくりやらなきゃいかんこともありますので、それは表裏一体ですけど、両方を考えながら進めていっていただきたいなというふうに思います。

○議長（神谷直子） 11番、鈴木議員。

○11番（鈴木勝彦） ありがとうございます。

私もこれで23年目の議会務めさせていただいております。いい意味で当初の職員の皆さん方と市長が16年前になられてから職員教育をしっかり努められて、私は素晴らしく職員が育っているな、若い人もそれを見習って伸びているなというのはまさに実感をしている議員の一人であります。これは森市長から引き継がれて16年間やってこられた結果ではないかなと思いますし、高浜市の職員というのは財産になると思いますので、先ほど言いましたように知恵を絞っていただいて市民に寄り添っていただいて、職員の皆さん方には本当に頑張っていただきたいなと、そんなふうに思っております。

そこで、市民の皆さんへ伝えるということがまた大事なかなと思っております。吉岡市長は、市議の時代から資源ゴミの回収拠点をほぼ毎日自転車で回り、市民との対話を続けてこられました。市民と行政の距離を近くされたのは、こういった行為が行われた吉岡市政の強みでありました。市民の皆さんとの対話を重視して、地域とまちとの協働を意識した実行力と行動力に驚きました。市民からは直接話ができ、思いや考えを市長に直接伝えることができたと思っております。

いていると思っております。

そこで、16年間で市民の皆さんの様子がどのように変わってきたと感じているのか、今後どう変わっていただきたいか、お伺いしたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 本当に最後に申し上げる話になると思いますけど、ちょっと先ほど数字でお話をしたこともありますけど、ちょっとその数字に近いような話なんですけど、令和元年と実は高浜市の人口って今の状況ってのは同じぐらいなんですよ。その中で何が変わってるかという、日本人の方は実は1,000人ぐらい減ってるんですよ。1,000人ぐらい減って今と同じ、令和元年と同じ人口になってます。もっと変わってるのは、20から39までの女性の方が300人ほど減少してるんですよ。同じように見えても実は見えないところで、そのまちの中っていうのは変わってきてます。これからその高浜を考えたときには、そういう見えないところで変わっているっていうことを意識しながらやっていく必要があるかなというふうに思います。

それからもう一つは、本当に皆さんの力で16年、17年の私の16年間の間、もっと前、まち協ができることからすると、地域のことを考える方、先ほど申し上げましたように、大家族という意識を持っていただく方が非常に増えてきておるというふうに思いますが、まちの中はどんどんなくなっていく方と入ってくる方というのは入れ替わってます。そういう意味では、そういう大家族の意識を持ち続けるようにしていかないと、そのまちの姿っていうのは今思っているよりも違う形になってしまうんじゃないかなと思います。

どう変わったかのもう一つは、そういう中にあっても子供さんたちはより元気で、若い人たちの活躍も目立ってます。議員御承知のように、岩井選手はプロ野球に行かれましたし、杉浦悠太君はゴルフでそれこそ大活躍してるし、ちょっと前になりますけど、スケートボードで碧優（みずぐ）さんが活躍をしていただいたりとか、そういう若い子たちの活躍も目立って増えてきてます。それから未来塾でやってきたようなこと、それから高浜の私どもがやったというのも直接じゃないですけど、映画作りにしても4回、5回とこう回を、今4回目ですかね、重ねているようなところを見ても、若い人たちはまた違う形で高浜市を盛り上げてくれているなというふうに思います。

そんなふうに変っていくのを見ながら、将来に向けて、その大家族の意識を持ち続けていただきたいなっていうことと、それから「ペイフォワード」っていう言葉があります。これ恩送りとかいうふうに言われるんですけど、「ペイフォワード」っていうのは、自分に受けた恩をその恩をいただいた方に返すんじゃなくて、皆さんに返していくっていうことなんです。よく町内会でもメリット、デメリットの話がありますが、御本人にとってのメリット、デメリットで話されていると思いますよね。そうではなくて、皆さんが地域でイベントやっていたり、町内会で交通安全とか防災とか防犯とかやっている、一緒にやっていく中で、どっか将来に向けて、

この地域であったり、将来に向けて子供さんであったりに返ってくるんだっていうその「ペイフオワード」っていうようなことを思っていただけになるとありがたいなというふうに思っております。

最後になりますが、16年間こうやって市政運営を任されて、皆さんにとっては御不満な点もあったかもしれませんが、何とかやってこれたっていうのは、もちろん市民の方たち、そしてまたここにおいでの方の議員の皆さん、そしてまた後ろにいる職員の力なくしてはできなかったことでもありますので、皆さんに感謝を申し上げて、最後の市民の皆さんに伝える言葉というふうにさせていただきます。

本当にありがとうございました。

○議長（神谷直子） 11番、鈴木議員。

○11番（鈴木勝彦） ありがとうございました。

以上で、私から吉岡市長に質問する議題は終わりました。

私として少しまとめさせていただきたいと思っております。

吉岡市長は、他の自治体や行政が抱えている課題を今いち早く推測され、課題の抽出や対策に向けた取組に着手されました。これは未来を託す子供たちへの絆となる協働のメッセージであると考えます。

これからは、進む道はさらに厳しい道なのであることは覚悟を持って取り組まなければなりません。今後、託された後継者には先を読み解く力と行動力が求められており、市民がどんなまちになるのかが期待と希望を持っています。そのため、議会も機能をしっかり発揮させ、重要な課題に積極的に取り組む必要があります。市民、議員、議会との連携がいかに重要であるかを再認識して、議会運営に取り組む必要性を強く感じております。

そして、最後にメッセージとして述べさせていただきます。

吉岡市長は、1999年、平成11年に高浜市議会議員に当選されました。私はその後の2003年、平成15年に高浜市議会議員に初当選させていただきましたが、経験のない私に議会の考え方や進め方、市民との話し合い、接し方、行政との取組など、議員としての心得を御教授いただきました。また、市政クラブに属してたくさんの経験を積むことができ、ここまで議員を務めてこられたのも吉岡市長という学ぶべき模範があったおかげであると思っております。

市長になられてからは立場が違えども、それぞれの思いである、安心して住み続けられる高浜市を築き上げるために、市政クラブと行動を共にしながら、お互いに思いを実現するために努力を積み重ね、実行してきたと思っております。

しかしながら、まだ理想郷にはほど遠く、納得のいくまちづくりには到達していませんので、今後も引き続き、理想を掲げてまいります。

これからは、一市民として大所高所から見守っていただき、至らないところは指摘し、ときに

は指導していただきますようお願いいたします。

任期も残すところわずかとなってきましたので、最後の日まで気を引き締めて執務に取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

少し早いようですが、吉岡市長、長い間、市政発展のために御尽力いただきましたことに感謝とお礼を申し上げまして、市政クラブを代表しての私の一般質問を終わらせていただきます。

本当に御苦勞様でした。ありがとうございました。

○議長（神谷直子） 暫時休憩いたします。再開は10時45分。

午前10時35分休憩

午前10時45分再開

○議長（神谷直子） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、13番、倉田利奈議員。一つ、教育行政について、一つ、吉岡市政16年間について、以上2問についての質問を許します。

13番、倉田利奈議員。

○13番（倉田利奈） ではまず、教育行政ということで学校施設の長寿命化工事についてお聞きいたします。

高浜中学校は、当初令和8年度に長寿命化工事に着手する予定でした。現計画では令和12年度の着手と、4年間工事が延期されております。専門家から、今年度建築後56年を迎え、長寿命化工事に着手する時点で61年を迎えることから、もう長寿命化工事は無理ではないかといった声も聞こえてまいります。既にかなり老朽化しており、そしてその上、4年間工事が延期されているということで災害時の生徒の安全を危惧いたします。

この4年間の延期について、災害時の生徒の安全性は考慮して判断されたのでしょうか。また、先延ばしをしたとしても、先延ばしするんですけど、先延ばししても南海トラフ巨大地震が起こった場合、生徒の安全は確保されるのか。しっかりした答弁をいただきたいと思います。お願いいたします。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 高浜中学校の長寿命化改良工事の予定時期を当初計画から後年に遅らせたわけですが、校舎の外壁の剥落や雨漏りなど劣化が著しかったことから平成29年度から平成30年度にかけまして、外壁、屋上防水改修工事を実施していることを踏まえまして、計画の見直しを行った結果、躯体の状態が比較的良好であることから、状態監視保全等の考えに基づきまして長寿命化改良工事を後年に遅らせています。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 長寿命化工事が延期になったってことなんですね。今、一部外壁工事とか、

当時非常に雨漏りひどかったものですから先に着手したことは理解します。しかし、それだけではないのかなと思うんですよね。いわゆる躯体の安全性は今大丈夫というような御答弁がございましたが、生活面とかその他の面については生徒への影響ないのでしょうか。その点についてもお聞きしたいと思います。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） まず、高浜市学校施設長寿命化計画を令和2年度に策定しておりますが、その計画に基づきまして長寿命化工事を今実施している状態でございます。

学校施設を取り巻く環境の変化や児童生徒数の推移及び財政状況に応じまして、計画の見直し等が必要となる場合は変更している状態でございます。

生徒の安全性についてはまず第一に考えて、その計画の変更を行っているところでございます。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 生徒への影響もないということで、そういった理解で教育長、よろしいですかね。よろしいですか。いいですかね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） はいっていう今お答えがありましたので、次に行きます。

次の保健室のシャワーの設置についてお聞きしていきます。

以前、吉浜小学校では嘔吐などへの対応として給湯器のお湯では限界があり、衛生面も考慮し、保健室にシャワーを設置したとお聞きしております。シャワー室では、下痢や生理など突発的な生理現象による汚れや怪我をした際の傷口の洗い流しなど様々な対応ができます。高取小学校の長寿命化工事においても保健室には当然にシャワーが設置されると思っておりましたが、結局設置されませんでした。まだ十分に設計変更が可能な時期に私は教育委員会にシャワーの設置をお願いしましたが、受け入れられませんでした。

小学校5校について、まずシャワー室の設置の状況、あるいは設置予定についてお答えください。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 小学校のシャワー室が設置されている学校は、高浜小学校、吉浜小学校及び翼小学校の3校となります。港小学校につきましては、今年度から実施する長寿命化改良工事にて設置する予定をしております。また、高取小学校はシャワー室が設置されておませんが、今後予定される中規模改修等で設計段階におきまして各学校の必要度等を協議した上で総合的に検討していきたいと考えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長は高浜小学校の建て替え時、高浜小学校これ避難所であることから避難者のためにシャワーは絶対に必要であるっていうふうに強く明言されてたんですよね。私すご

いそれを覚えています。そのことを踏まえますと、高取小学校も避難所であることから、なぜ高取小学校にシャワー設置されたのか市長にその理由をお聞きしたいんですけど。簡潔にお願いしたいと思います、分かりやすく。なぜなのでしょうかね。そこの整合性が私分らないんですけど、市長どうですか。市長がこれすごいおっしゃってたんでお願いします。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 長寿命化改良工事等に合わせて学校にシャワーを設置する考えといたしまして、まず長寿命化改良工事というのは、老朽化した建物について物理的な不具合を直し、建物の耐久性を高めることに加えて、建物の機能や性質を現在の学校が求められている水準まで引き上げる改良を行うことが目的となっています。それに合わせて本市では、トイレの改修など学校運営に必要度が高いものを優先して行っています。

また厳しい財政状況の中、国庫補助金等の活用、コスト縮減及び優先順位等により費用の縮減や予算の平準化を図る必要があるため、シャワー室の設置につきましては各学校の必要度を協議し、総合的に検討している状態でございます。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 学校だけじゃ駄目なんですよ。やはり避難所にもなります。それから学校開放で市民も使用します。市長そうですよね。総合的に判断しなきゃいけないんじゃないですかね。市長、答弁ないですか。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 私、議員、絶対にこれは必要なんだっていうふうに私が言ったというふうにおっしゃってますけど、そんなふうに申しあげましたかね。

〔「はい、言いましたよ。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） それはあなたが多分そういうふうに聞いてみえると思うんですけど、シャワー室は必要ですよっていう話はさせていただいたかもしれませんが、シャワー室、必ずしも災害時にはいいかという、そうでない部分もありますね。実はその水を大量に使うことが不可能なんですよ。ためておる水を使ったりするっていう面では、そういう機能があればシャワー室をつけるっていうのは可能かなというふうに思いますけど、必ずシャワー室は絶対必要なんですよって言った覚えは私はございませんが、必要だろうというふうに言ったことはあります。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） おっしゃいましたので、ぜひ思い出していただけたらと思います。

あのですね、私もその当時、シャワー室避難所でそんな必要なのかな。水が来なければ、またお湯が出なければなかなか使えないのに、そうなんだ、そういう考えなんだと思ったんですけど、今回高取小学校つけなかった。私ちょっと意味がよく分かりませんでした。今のもなぜ高取小学校だけつけなかったのかっていう、ちょっとお答えになってないと思います。

学校給食会計についてお聞きしていきたいと思います。4月2日の今年ですね、中日新聞に食材の発注ミスで給食費70万円不足という見出しで県内版の記事が記載されました。この中に翼小学校の校長と岡本教育長のコメントが載っていました。翼小学校の校長は、もう少し早く気づけばと悔やまれる、栄養教諭に任せすぎたと反省している、というコメント。岡本教育長は、初めての事態、初歩レベルのミスで残念、というコメントが載っておりました。このコメントを見た方から私のほうに、2人とも栄養教諭を切り捨てるような冷たいコメントではないか、まるで他人ごとになっているという声が複数寄せられております。

そこで、改めて今回の件に関する教育長のコメントを求めたいと思います。お願いします。簡潔にお願いします、教育長。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） そのときに述べたことと同じであります。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 私もちよっと冷たいなと思いました、これは。

では、次に行きます。次に、市はどのような立ち位置なのかというところなんですね。これ学校給食法第4条には、義務教育諸学校の設置者は、当該義務教育諸学校において学校給食が実施されるように努めなければならないとなっているんですね。これそのように規定されております。よって、学校給食の実施者は義務教育諸学校の設置者、すなわち市ということになると考えられます。また、市は公金を使い、学校給食会計監査も実施しております。このことから、市も大いにこの事件については関係してると思うんですけど、市のトップとして今回の件に関する市長のコメントをお願いしたいと思いますが、いかがですか、市長。簡潔明瞭をお願いいたします。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今回の翼小学校の給食費が不足した件でございしますが、あくまでも私会計上の問題であるため公費等で負担することは考えておりません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） いや、そんなこと聞いているんじゃないんですよ、私は。義務教育諸学校の設置者である市長が今回の件に関して、ましてや市の一般会計から私会計の監査も公金を使って行ってるわけなんですよ。ですから市長のコメント欲しいんですけど、市長いかがですか。お答えにならないんですか。全く自分には関係ないからっていうお考えなんですか。それならそれでそのように言っていただければいいんですけど。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 学校給食のことをちょっと申し上げると、今申し上げたとおりなんですけど、私会計でやっておる意味をお考えいただきたいなというふうに思うんですよ。給食賄い費って学校給食法上では、これ保護者が負担するっていうことになってるんですよ。全体のお金の

監査をやっているからといって、学校給食法上、それ私会計でやっていると、私会計でやっている限り、賄材料費については今答えたとおりの判断で私は決して間違いじゃないというふうに思っておりますけれども。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 私会計でやっているから関係ないってことでしょうか。私会計でやっても、それは栄養教諭なり、それを任命している学校長、教育長、そしてその給食を、先ほど言っているように設置者は市長なんです。なのにそういう何か人ごとみたいな、うちは関係ないみたいな感じのちょっと答弁でいいんですかね。それ全然市長としてどうなんですか。何も自分はまだ責任も感じていない、私会計だからそれは賄材料費は学校ごとでやっている問題だからってことですね、今の答弁だと。そういうふうに私は感じるんですけど違いますか。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 何度も申し上げますけど、私会計でやっているから私は関係ないと言っているわけじゃないんですよ。これあの賄材料費そのものが、いくらこれ公会計でやってもそれ一緒なんです。本来は保護者が負担すべきものっていうのが、いわゆる学校給食法でうたっていることなんです。ましてや私会計でやっておるのであれば、設置者が高浜市であるからとはいえ、それは当然先ほどから申し上げているような対応で私は間違っていないというふうに思っております。だから関係ないと言っているわけじゃありませんよ。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 次、行きます。

今回の報道に私、大変違和感をまず覚えました。なぜかというと、これ議員への情報提供全然なく、突然これ記事になって知りました。通常、市から記者へ情報が提供され、議員への情報提供があり、記事になるのが一般的ですよ。今回の件に関して、議員や記者への情報提供について、それから今回の報道に至るまで、この経緯をお聞かせいただけますか。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今回の翼小学校の案件につきましては先ほども申し上げましたけど、そもそも私会計上の案件であったことから議会への報告の予定はしておりませんでした。令和7年4月2日に中日新聞より報道がされました。その時点で翼小学校の保護者への対応方針等が確定していなかったため、議会への情報提供は行いませんでした。その後、保護者への対応方針等が確定いたしまして、保護者への文書の通知を行ったタイミングで議会のほうには情報提供をさせていただいております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） これ中日新聞の記事によりますと、もう2月ですよ。これさっき言ったように、新聞記事になったのが4月2日です。これ2月上旬に100万円程度の赤字になるという

見通しだったんですね。これ、いつ誰がどのようにして100万円程度の赤字になることこれ把握されたんでしょうか。また、学校から教育委員会へはどのような形で報告され、市長へはいつどのような形で報告されたのか併せてお聞きします。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 年明け、翼小の校長から給食会計の現状、赤字になりそうだということを知りました。原因は、物価高騰がある中で、昨年度の献立をほぼ踏襲して行ったことにより、不足してしまうという内容でありました。私会計につき、公費での補填はできないと決定をし、翼小学校の校長が、私会計なので私校長と担当栄養教諭のほうで不足分について補う決定をしました。その報告については私のほうから市長へしております。

翼小学校の校長は、当然保護者への連絡、報告は考えておりましたけれども、まだ支払金額が確定していない中で、新聞が先に報道し、遅れて、支払金額が確定したので、そこで紙面をもって、保護者へ報告をさせていただいたというものであります。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） すいません、市長へいつ報告されているか、どのように報告されたのか、答弁漏れをお願いします。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 具体的な日には覚えておりませんが、相談を受けて決定した後、すぐに報告したと覚えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 100万円の赤字対応として、給食は2月上旬から通常より野菜を減らしたり、米の量を2割削減したりして不足分を一部穴埋めし、結果として約70万円の不足となったとありました。児童や保護者から苦情がなかったため説明はしていないということでした。今ちょっと教育長からもいろいろ説明ありましたが、こういうやり方していると、保護者に説明もしないで分からないように量を減らして対応してきた。不信感が募りますよね、これ。この間、児童への栄養価が不足したのではないかという懸念も残ります。2月上旬の時点でなぜこれ事実を明らかにしなかったのか。今、支払金額が確定してなかったからって言うんですけど、確定してるかしてないかに関わらず、まずもって状況説明すべきではなかったのかと思うんですけど、何かどうしてそういう判断になっちゃったのかなと思うんですけど、まずもって、これ発覚したの4月ですよね。保護者への通知も4月以降ですね。金額確定云々よりも、まずもってその状況は保護者に伝えるべきではなかったんでしょうか。そのあたりのお考えをお聞かせください。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 給食会計につきましては年間を通して行うものでありますので、その時点では報告はしなかったというふうに考えます。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 私は以前これまで一般質問において、物価高において、これ給食費大丈夫ですか。給食費の値上げがこれ以上できないのであれば、市の補助金を入れるべきではないですかと発言してきておりました。この物価高の中で、栄養教諭はやりくり、ほかの栄養教諭も含めてですよ、私は大変苦勞されていたのではないかと推測します。これ各学校の栄養教諭から、この物価高の中で対応できないとか対応が厳しいとか、そういった声上がってきてなかったんでしょうか。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今年度から栄養教諭がまとまって献立のほうが一本化されたわけですが、その中では物価高に対する要望等はございませんでした。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 今回のこの結果を受けて、市長にこれ聞きたいんですけど、結果的にこれ公会計早く移行していれば、あるいは市から物価高騰に対する補助をしていけば、こういうことにならなかったのではないかと思うんですけど、そういった思い、市長あるんでしょうか。どうでしょうか。市長の思いを聞きたいので市長、お答えください。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） ありがとうございます。私の思いはですね、公会計に移行する時期が遅かったからってことは全く関係ないんじゃないのというふうに思います。物価高騰に関しては、それぞれ物価高騰への対策は講じておりますので、給食費そのものにお金を入れるかどうかということとはまたこれ別じゃないかなというふうに思っています。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 先ほど様々なところで物価高騰とかに対応してきた、コロナに対応してきたって言われるんですけど、今の答弁だと、じゃ、給食費は対応してこなかったってことなんですよ。私は本当に。違うんですか。違うのであればどうぞお答えください。

あのですね、教育委員会は、校長や栄養教諭に、先ほど言ったように約70万円の不足分の負担を求めると記事にありました。そこで、学校給食会計監査の結果についてお聞きしたいと思うんですけど、令和6年度の翼小学校の学校給食会計、最終的に約70万ってことなんですけど、結局幾らとなってその赤字額、結果的に誰が幾ら穴埋めしたのでしょうか。また、穴埋めの負担割合どのように決定され、既に補填が完了したかについてもお聞きしたいと思います。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今回の翼小学校の件でございますが、教職員が不足額を補填した額は72万3,561円となっております。不足額を負担したのは、翼小学校の校長と同校の栄養教諭の2名が補填していますが、負担割合については把握しておりません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 既に補填は完了したということによろしいでしょうかね。

今回のこの件、市が負担するといった対応も考えられます。特に一生懸命頑張っている栄養教諭が弁償するということに対して私は心が痛みます。学校ではこういうミスをしたら全額教員が弁償していくんでしょうか。福岡県の大野城市では、職員が食材を過剰に発注し、給食費が約70万円不足し、不足分は市費から補填するという記事を見つけました。

本市ではどのような見解で栄養教員に弁償を求めるといった結論に至ったんでしょうか。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） まず新聞報道にあった負担を求めるとするのは、私会計につき公費での負担はできないよという話はしましたが、具体的に払いなさいと言った覚えはないです。その状況において、私会計の責任者である校長が、ならば責任者として負担せざるを得ないという決定をしたと思います。それは私会計をしている以上、その最終監督者である校長はそれは仕方のないことです、立場上。それが管理職の責任というものだと思います。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 校長だけではなくて、栄養教諭は負担されなかったということですか。どうなんですか。そこをはっきりしたいと思います。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 先ほどリーダーが言いましたが、割合は把握していないが校長と栄養教諭で負担をしたということであります。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 例えば違法行為をしたとか、それか悪意に何かやって、市になり学校になり不利益を講じさせたとかそういうことであれば、ある程度の損害について補填するっていうのは考えられます。でも私、これで補填するってことは、今後すごくこの職員にも影響が大きく関係してくると思うんですね。何かミスしたら弁償する。自ら弁償しますって言って弁償しないといけなくなっちゃうんですかね。ちょっと考えられないんですけど。

〔「反問」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長。反問権どうぞ。

○市長（吉岡初浩） 質問の意図が分からんですけど、何か弁償させるような事案ってのはどういうものをお考えなんですか。あまり考えにくいですよ、今のことと関係して。今の質問の意図がよく分からんですけども。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） では、私はやはりこういうことってどういうことに対してきちんとどういった処分を行い、それに対して損害賠償をするのかどうかっていうのは決まってると思うんです

よね、自治体ごとにそれは。それに基づいて処分されたんですよっていう説明ならまだ分かるんですよ。自らもうこれは負担しますと言って負担させていると、今後ほかの職員もみんなそういうミスをしたらそうやって自らそうやって違法行為とか、故意に何かをさせたとかそういうことでないことでも負担をさせるんですかっていうことなんですよ。それが私は分からないんですよっていう質問なんですけど、分からないですか、市長。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 質問の意図が分からないってことで私聞いたんですけど、具体的に今の学校給食のこの問題のようなことがあるんですかと想定されるんですかと、何を想定して質問されてるんですかってことを私聞いておるんですよ。分からない。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） ちょっと私は市長が言ってることが分からないんですけど、私はやはりなぜ個人に負担をさせたのかっていうところが分からないから聞いてるんですよ。私これだと今後職員もすごく萎縮するんじゃないかと思っております。次に、行きます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長。

〔「私、今質問していますので。」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長いいですか。

○市長（吉岡初浩） いやいや、答えを聞いてないから言ってるんですよ。今後その職員が萎縮するんじゃないかなっていう、そんな事案が考えられるんですかって私は聞いてるんですよ。そんなあることかないことか分からんことを聞いてもらっても分かりません。そう申し上げてるんですよ。

〔「じゃ、それで結構ですよ。議長、13番。」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 時間がないので、次行きます。

私はこの一連の結果を受けて、公会計への移行が遅かったこと及び早くに物価高への対応ができていれば、このような事態は免れたと考えております。市長よろしいですか。

この4月に学校給食は公会計に移行し、給食費値上げ分については国からの物価高騰に対する補助金を活用することで保護者の給食費の負担は一時減ることになります。今後の見通しとして、保護者からの給食費と今回の補助金、これだけでやっていける状況にあるのかどうか教えてください。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 公会計化につきましては、今後、国が給食費の無償化についても2026年度にまず小学校から開始すると論議されておることも踏まえまして、今後ガイドラインに

あるように、どのように公会計化を進めていくか慎重に検討していきたいと考えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 国の動向今見るということですけど、国がどうなるかまだ分からない状況なんですよ。その間にもし物価が上がって、いわゆる先ほど言ってるように保護者の負担と、それから国からの補助金、これで賄えなくなった場合、今からまだまだ物価上がる可能性もあるんですよ、なかなか下がるっていうのは今の状況見えにくいんですけど。そうなった場合、これ補正を組むのか、もしくは給食費を足らない分徴収するのか、どのように考えているんでしょうか。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今後の物価高に対しての給食費の考え方でございますが、今年度から公会計化になったこともありまして公費を入れるのか、保護者の負担となるのか、今後その辺についても近隣市を調査した上で検討していきたいと考えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 近隣市はもうとっくに公会計化したり、給食費の無償化したりしているので、なかなか参考にはならないと思うんですけど。

4月臨時会のこれ補正予算で、過年度小学校給食費が25万1,000円計上されておりましたが、そのうち翼小学校分の支払金額は幾らで、誰に対して支払われるものであったのでしょうか。教えてください。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 翼小学校の債務引受契約を行った未払い分は4万1,859円となっております。支払う相手方としましては、公益財団法人愛知県学校給食会に支払うものとなっております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） これ最後引き継いで市が払ったと思うんですよ、この4万1,859円は市の一般会計から払ったと思うんですよ。先ほどの70万円については校長と栄養教諭が負担しているのに、なぜこの4万1,859円、この補正予算でまた出てきた、足りませんって出てきた分については、なぜこれ市が債務負担するのか説明いただきたいんですけど。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 債務引受を行った未払分は債権譲渡額と同等となっております、公会計化により給食費の未納による学校債権を市が引き継ぐため、学校に残った食材業者に対する債務を同額で引き受けたものとなっております。教職員が補填した不足額につきましては、物価高騰の影響によりまして、献立変更等の対応を実施しないまま食材を発注したことによる支出の見誤りにより発生したものでございますので、債務引受を行った未払分と教職員が補填した不

足額は性質が異なるものと認識しておりますので、公費での負担は考えておりません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 片や物価高騰の見誤り、片方はいわゆる未納者がいた分が入ってこなかったから、その分足りなかったから市が払ってくださいってことなんですよ。でも私会計でやる。今先ほどからずっと市長、私会計だから私会計。私会計というのは、未納者の分も含めて私会計でやる、そこで食材を発注するっていうそういうシステムですよ。だからそれも同じですよ。同じミスなんですよ。何で同じミスなのに、なぜそういうふうになるのか私全然理解できないんですけど。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） リーダーが申し上げたとおり、性格が全く違うと。何でその未納分がミスになるんですか。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 給食費って単年度でやるんじゃないんですか。私会計、違うんですか。単年度で会計して終わらせるんじゃないんですか。で、未納者の分も含めて食材発注しなければ、その部分はどうぞやって出すんですか。私全然分からないんですけど。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） 先ほど未納分をミスという話です。その今の単年度云々じゃなくて、その未納分がミスという意味が分からないのでそれを聞いたんです。

○議長（神谷直子） それ反問権を使われるってことですか。

〔「議長、13番」と呼ぶ者あり〕

〔「はい、いいです。」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 13番、教えてください。今反問権を使われるそうなので。

13番、どうぞ。

○13番（倉田利奈） 実際の会計は単年度ごとですよ。未納者も含めた金額でやらなければ、それは会計上問題がありますよね。じゃあ今まで足らなかった分どうしたんですかってこないだ聞きました。そしたら次の4月に入ってきた給食費で払ってました、食材費。そりゃおかしいですよ。

○議長（神谷直子） 教育長。

○教育長（岡本竜生） その単年度と言いますけどもね、その未納分を、じゃあ先方の都合でいつ収めるか分からないわけですよ。その中で単年度でやりたくてもやれないってことが起きるわけですよ。だからその次の年度に送るしかないんです、これは。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） はい、結構です。

4月の臨時議会の補正予算では、私本当に給食費の管理があまりにもずさんで開いた口が塞がりませんでした。今後、公会計に移行したと言いながら保護者が直接市に給食費を入れるのではなく、これまでどおり保護者は校長の通帳に入れ、その後市の一般会計に入れる状況です。これ完全な公会計化とは私は言えません。

今後、適正な給食会計を行うためにどのような対応及び対策を行っていくのでしょうか。教えてください。

○議長（神谷直子） 学校経営グループ。

○学校経営G（清水 健） 今後の公会計化につきましては、ガイドラインで示しています教員の業務負担の軽減、保護者の利便性の向上、学校給食費の徴収管理業務の効率化、学校給食費の管理における透明性の向上などが示されておりますので、これに向けて検討していきたいと考えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 公共施設及び公有財産についてお聞きしてまいります。

吉岡市政16年間の重要なテーマ、これは行財政運営と公共施設だったのではないのでしょうか。

市長選に最初ですね、挑戦した当初、市長は市民の皆様に入っただけのよう、公共施設のあり方検討市民会議を立ち上げますとマニフェストに掲げられておりました。

また、公共施設の在り方検討においては、市民の皆様にも本市の公共施設の現状と課題を御理解いただくことが何より重要であり、積極的な情報発信に努めていくとされておりました。

これを実践していれば市民の理解も深まったと思いますが、公共施設及び公有財産について、市民に現状と課題を御理解していただくことが重要とし、テーマごとに開催されていた地区説明会が開催されなくなりました。公共施設については、大きな財源を必要とし、市民の理解が不可欠です。なぜその他重要な政策も含めて、地区説明会が開催されなくなったのでしょうか。市民の理解を深めるためにどのようなことをされましたか。市長お答えください。市長のこれマニフェストですよ。

○議長（神谷直子） 総務部長。

○総務部長（杉浦崇臣） 地区説明会を開催したのは、例えばこの新庁舎の整備事業等ですね、あと高小整備事業と、これモデル事業として市がまずシンボルとして挙げて実施をしてきたものでございます。

その後はもう個々それぞれの施設の長寿命化と個々の施設の見直し等に入ってしまったので、その部分についてはそういった地区説明会を開催するまでもないという判断でございます。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 中央公民館の解体について、市民から多くの署名が集まり住民投票が実施されました。有権者の3分の1を大きく超える署名が集まり住民投票を実施しましたが、市民の

意思を確認することなく解体に踏み切りました。中央公民館は解体前にリニューアルされており、トイレも洋式化したばかりでした。今後40年間、公共施設を全て維持できないことから、財政的な理由により解体されました。当時、美術館は、平成33年、34年、機能移転し、民間移譲と計画されておりました。しかし、令和3年度の公共施設推進プランに突如かわら美術館・図書館の改修費30億円が追加されました。そのときの説明では、とりあえず計画として載せてみたということでしたが、図書館本館機能も美術館内に移転して現在も施設が継続されております。あれほど市民が中央公民館存続に声を上げたのに市民の声は届かず、一方で美術館の存続を決めた理由を簡潔にお答えください。

市長の判断をお聞きしたいと思います。どのような判断だったんですか。美術館を復活させた判断、教えてください。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 当時も御説明をしておるといふふうに思いますし、市民センターですね、中央公民館。中央公民館の機能っていうのは、主に貸し館に特化しておるような部分がございます。当然、築年数もかわら美術館に比べて非常に長いと、当時は40年ぐらいでしたので。かわら美術館はまだ30年もいってない状況でしたので。当然耐用年数が長い、もう改築の大きなお金を投じて大規模改修する時期はちょうど来ているっていうのが中央公民館をまず最初にこれを廃止するっていうところの大きな理由になりました。かわら美術館はまだそこまで耐用年数も来てないし、またもう一つは、先ほど申し上げたように、中央公民館は主に貸し館で、中でいろんな事業を行われるけど、そのホール機能っていうのは代替性もあるんだろうということです。

ところが美術館っていうのはやっぱり全く性質が違うもんですから、そういう簡単には美術館の機能を廃止するっていうことは、当然、あれは私どもの財産であるだけではなく、やっぱり国の日本の財産として考えなきゃいけない部分もあるということです。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） では逆に聞きますけど、なぜ当時民間移譲、機能移転だったんですか。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） だからそういう機能があって担保できて使える施設であるし、例えば今、日本ではなかなか少ないんですけど、ああいう美術館というのは民間の団体は運営維持してるところはいくらでもあります。だからそういう道も探るべきじゃないかなっていうことです。だからあれを美術館をずっと市が持ち続けるということではないという中の一つの最初の判断でしたけど、それはすぐなかなかこれ難しいと、そういう民間の方たちをお願いしていくというのは難しいだろうということで、まずは修繕をするときにはどのくらいかかるんだろうということを算定をさせていただいたということです。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） では、それって公募されたんですか、どこか引き受けてくださいっていうのやられたんですか。そんなの私見たことないんですけど、なぜこれ復活しちゃったのかが分かんないんですよ。そこを聞きたいんですよ。なぜ美術館が復活したんですか。市長がおっしゃるように、民間でやってもらえるんだったらやってもらいたいという考えがあったんですよ、当時。であればそれはそうやって公募すべきじゃないですか。名古屋の金山駅前だってそうですよね。そうやってやりましたよね、公募してましたよね。でも公募もなく、いきなり何で市がやりますってなったんですか。そこが分からないから聞いてるんですよ。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） これは管理計画とかつくっていく中で、今の世の中の経済状況とかいろんなものを勘案したときに、なかなか公募は難しいという判断ですね。もう民間に簡単に移譲できる状況ではないなということです。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） なぜ民間に簡単に移譲できるものではないのでしょうか。そこが分かりません。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） それは収益性の問題とかキャパシティの問題とか様々民間が運営している事業の中で、時代的に言うと、あの時点ではやはり難しいだろうという判断です。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長のそういう個人的な判断なんですね。

では、次行きます。前回の市長選挙時に掲げられた図書館の在り方について、総合的な図書館を分断し、現状はとても図書館と私言えないと思っております。私は前回の3月議会において入館者数及び貸出冊数もコロナ禍前と比べると減っているということを申し上げました。市長はそのとき、皆さんの手で成長させていく、これから図書館を成長させていくと発言されました。移転後も指定管理者が図書館に関する企画展や図書ボランティアの方による活動を引き続き行われておりますが、この皆さんというのは誰のことですか。そしてその方が何をしていくのか、具体的に教えてもらっていいですか。

○議長（神谷直子） 市長。

〔「簡潔をお願いします。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） まさに議員さんあなたですよ。あなたを含めて市民の方ですよ。よそごとで他人ごとで言ってみえますけど、あなたもその一人だというふうに私は思いますけど。

〔「私は何をやるんですか。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） だから何をやるんですかじゃなくて、何をやることを考えていただきたいんですよ、図書館を言うのであれば。私はそれを言ってるんですよ。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 分かりません、私。図書館のこれ移転にかかる費用について私はどれぐらいかかったのか、これ積み上げたところ1億です。1億超えました。費用対効果についてどう思うんですか。その私が成長させていくために1億かけて移転させたんですか。市民が成長させていくために1億かけて移転させたということですか。これ費用対効果について市長どう思ってますか。お答えください。

○議長（神谷直子） こども未来部長。

○こども未来部長（磯村順司） 旧図書館については老朽化が進んでいる、また今いろいろ読書離れが進んでいるという中で図書館という在り方をどう考えていくかと、そういうことはさっきの質問の中でもいろいろ答弁させていただきましたが、その中である程度改修費用をかけて市民の方が本に親しむ機会を多くつくって、そうやって親しんでくれた方が、先ほど市長が言われているように自分ごととして本というものを捉えて、高浜市内の図書館としてどうあるべきかというのを考えていただく、そういった施設になっていけばいいなというところが費用をかけた結果であるし、その効果というのは今後現れてくるものなんだろうなというか、現れていくようにいろいろやっていくということかなと思っております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 残念ながら私の周りには、今まで図書館を使ってた方が高浜の図書館から離れています。よその図書館に行っている、行くようになりましたという声をいっぱい聞いてます。

実際に昨日の答弁でもありました。健診のときに使ってます。使ってるのであれば、身近に置いてあるのであれば、もっともっと利用者数増えていいはずですよ。ところが昨年度減ってます。私は全然費用対効果が分かりません。市長今の部長の答えでいいんですね。市長の考えも全く一緒でいいんですね。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 部長が答えたことはそのとおりだというふうに思います。まず図書館って一体何だろうかっていうところで、議員さんの思っている図書館は何ですかかって私聞いたことがありますよね。そしたら前の図書館を改修すればいいんだとおっしゃってましたね。そういうものですかね、図書館って。我々今の図書館ってちょっと形骸化してるっていいですか、ある一定の方たちの図書館になってしまっている。離れていく方が見えるというお話がありましたけど、それは残念なことではありますけど、そういう方たちはまた自分の満足できるような場所を探して移動されるっていうのは、これはやむを得ないところもあるんですよ。非常に残念ですけど、活用していただければ十分活用できるような、そんな時代にはなってるんじゃないかなと思います。

例えばネットワークを使って高浜市の図書館じゃない本も十分借りれます。それから、行こう

と思えば、隣の碧南市にも近いですよ。だから図書館ってじゃあどういう図書館を目指してるんだっていうことを考えるとところから始めるし、もっと言うと本屋さんどんどんなくなってます。新聞どんどんなくなってます。御存知ですか、新聞が年間どのぐらい減ってるか。

〔「まとめてください。もうやめてください。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） 何百万部って減ってるんですよ。

〔「はい、議長、13番。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） いやいやいや、答えてる最中ですよ。冗談じゃないですよ。答えろというから答えてるじゃないですか。

〔「まだ答えますか。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） 答えますよ、もちろん。

〔「もうやめてください。私の時間ですから。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） いやいや…

○議長（神谷直子） 倉田議員、不規則発言はやめていただくようお願いします。市長まだ答えております。

○市長（吉岡初浩） 失礼な話だな、ひどいよ。答えろって言うから答えてるんじゃないですか。いい加減にしてくださいよ。

〔「はい、議長、13番。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） いやいやいや、私答えてる途中です。あなたいつもそう言うじゃないですか。

〔「早くまとめてください。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） はい。だから図書館っていうのはどう考えるかっていったときに確かに人数のこともありますが、私どもの考える図書館は、やはりそういうヘビーなユーザーさんのことも考えるべきところはあるんですが、全然図書館に行ったことがない人、本に触れる機会が少なくなっている現状、本屋さんもなくなってね、そういうところに、やはり本に親しんでもらう入口を作っていくっていうことが重要じゃないかなっていうふうに思った中で、こういう形を取らせていただいております。

大変失礼ですよ、あなた、質問を遮って。答えろと言うのに。

〔「もう終わったかと思いました。簡潔明瞭にお答えいただきたい。はい、議長、13番。」と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） 二度と答えませんよ。

〔「議長、13番」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） いやそれ二度と答えないってすごい無責任ですよ。市長、大丈夫ですか。

市長である限り、きちんとお答えください。

〔不規則発言あり〕

○13番（倉田利奈） 大丈夫ですか、市政クラブの方々。

〔「質問してよ。」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 1億円以上かけて今のあの図書館をつくられたということで、私は費用対効果があるとは到底思えないですし、先ほど言ってたどこの本でも借りれるし、今やはりデジタルも進んでいます。であれば逆に1億円以上かけて移転する必要があったのかなって逆に思いますけど。

旧図書館、市民の財産である蔵書、そして市民から御寄附いただいた貴重な郷土資料が保管されています。この間何度も問題視していますが雨漏りがひどい状態です。市長は市民の財産を保管されている公共施設が雨漏りしたまま退任されるようですが、この市長の判断について見解をお聞かせください。市長お願いします。

○議長（神谷直子） 文化スポーツグループ。

○文化スポーツG（鈴木明美） かわら美術館・図書館の付属施設の雨漏りの対応につきましては従前から何度もお答えをしておりますけれども、資料の保管については雨漏りの影響を受けないような場所で保管をしているというところで、大きな改修費を投じるといような考えはございません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長、同じ考えなんですね。大丈夫ですか。はい。

では、次に行きます。

旧高浜分院のくい撤去問題についてお聞きしていきます。旧分院は令和5年8月に解体工事が始まり、令和6年1月解体工事が中断されました。中断されて1年半経過しております。そして、お約束の今月末までにくい撤去されるような様子は全くございません。豊田会とは誰がどのように交渉しているのでしょうか。交渉の状況が全く見えません。いつ誰がどのように交渉しているのかお答えください。

○議長（神谷直子） 健康推進グループ。

○健康推進G（中川幸紀） 医療法人豊田会の交渉は不定期で行っておりますが、土地を返還していただくこの内容につきましては、原則として地中埋設物を完全撤去していただくよう求めています。豊田会の交渉は継続中ではありますが、完全撤去をするために考えられる工法の詳細であったり、それに伴うリスクの具体的な内容を明らかにして、書面で回答するよう求めています。早期に合意解決となりますよう組織対組織で交渉を継続しておりますのでお願いいたします。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 豊田会の理事である市長や高浜豊田運営委員会の委員である副市長、これ全く交渉に参加されていないってことですか。イエスかのノーかだけでお答えください。

○議長（神谷直子） 副市長。

○副市長（深谷直弘） 交渉は、今、担当グループリーダー申しましたとおり、きちんと書面でやっておりますので、私も承知をしております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長や副市長が表に立って交渉してるっていうことではないということですね。

このような状況にありながら、令和7年度当初予算においても豊田会への補助金は約2億3,300万円支払われる予定となっております。この補助金は高浜市と豊田会との協定書に基づくものです。一方、同じ協定書では、豊田会は旧分院を更地にして高浜市に返還することになってます。しかし、豊田会、このくい問題を解決する気概が全く感じられないですよ、今の状況見ていただくと。

これどうですか、市長。どのように捉えられていますか。市長に聞きたいんですけど。

〔「議長、健康推進グループ」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 市長がどう捉えてるかですよ。市長が豊田会の理事でもあられるんですよ。なぜリーダーが答えるんですか。リーダー、市長ですか。

○議長（神谷直子） 健康推進グループ。

○健康推進G（中川幸紀） 今おっしゃられております6月30日、無償貸与期間につきましては節目の日ではございますが、医療法人豊田会との交渉につきましては、すぐに話がまとまる内容ではなくて現在も交渉は継続をしております。土地の無償貸与期間に関わらず、一体的な解決に向けて、内部でも協議をしておりますのでよろしくをお願いします。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） そんなことは聞いてないんですけど。

土地の無償貸与期間、これ6月30日に貸借期間ですね、6月30日に期限を迎えるんですけども、今日6月11日です。これ6月定例会に議案が出されていません。7月1日から、じゃ有償貸付ですか。どうなるんでしょうか、7月1日から。どのように考えてますか。

○議長（神谷直子） 健康推進グループ。

○健康推進G（中川幸紀） 先ほどお答えしたとおりになりますが、一体解決に向けて内部で協議をしておりますので、この場で申し上げることはできませんのでよろしくをお願いします。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長、御自分の任期中に何とかするのが市のトップとして責任ある態度であると私は思います。責任を取らずして退任されるんですか。市長は、市民に向けてこの件につ

いて御説明ください。簡潔にお願いしますね。さっきみたいに…

〔「議長、市長」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長。

〔的を射て簡潔にお願いします〕と呼ぶ者あり〕

○市長（吉岡初浩） いや、しゃべると途中で止められるので二度としゃべりたくないなというふうに思いましたけど。

ずっとやれってことですかね、もう一回選挙に出て。多分、前もそういう話がありましたんで、私は死んでしまうよということを申し上げましたけど、それはいろんな課題が簡単に解決できないってことは往々にしてあるんですよね。だから永遠にやれって言えば、これはやらざるを得ないんですが、そういうもんじゃないでしょう。そういうもんじゃないでしょう、首長の職責というのは。日常生活でも、議員御自分の生活でもそういうことはあるでしょう。死ぬ間際にやっておきたいなと例えば私が思ってもできないことはいっぱいあります。やはり期間中にできることできないこと、特に相手がある場合は、例えば用地買収なんかでもそうです。できないですよ、なかなか簡単には。人の財産ですから。人の組織ですから。だから交渉っていう話なんですよ。簡単にいかないこともございます。御承知おきください。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 用地買収とは全く違いますよね。高浜市の土地ですよ。高浜市の土地で片や協定書に基づき、こちらは2億以上払っている。約束守ってるんですよ。このまま行くともう約束守らないですよ。市長は豊田会の理事なんですよ。1年半も放置ですよ。

次に行きます。吉岡市長が16年間必ず行わなければならなかったと考えることの一つが、公共施設の耐震化です。いまだ4つの老人憩の家は耐震の保証がないまま使用を許可し、耐震工事も行われておりません。どうやっても市長が退任するまでにこの問題が解決される状況ではありません。解決すべき問題を放置して、先ほども申し上げておりますが、退任されるようですが、この件についても同じですか。時間がかかるからできなかったってことでしょうか。そういうことです。ね。

はい、じゃあ次に行きます。答えられますか。

○議長（神谷直子） 副市長。

○副市長（深谷直弘） 耐震の問題につきましては今までの過去の議会でも倉田議員がいろいろとおっしゃっておられますけれども、やはり財源の話もありますし、そこの利用者の問題もあります。やはり公共施設として当時は必要性に応じて設置をしたということでございますので、その部分を鑑みながら、十分私どもも耐震の重要性ってのは分かっておりますので、今後も計画を定めて順次改修をしていくなり、廃止をしていきたいというふうに考えております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 今後っていつまでなんでしょうかね。市長が就任される前からの問題ですよ、耐震問題。で結局16年たっても解決できなかった。大山会館もそうですよね。大山会館も選挙で使用されなくなって、避難所としての機能のみ。これこないだも言いましたけど、市長が掲げてきた公共施設の複合化に全く逆行した形ですよ。これとても私は、市民の理解を得て、機能を停止したように思えないんですよ。市民の開館を望む声はかたくなに無視してきました。現状が最善の在り方であると判断した市長、トップとしての見解を求めます。

〔「議長、副市長」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 副市長じゃなくて市長に聞いているんですけど。副市長はだってまだやられるわけですから…

○議長（神谷直子） 副市長。

〔「市長がこれで退任されるから、市長お願いします。」と呼ぶ者あり〕

〔「議長、市長」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 確かに私市長ですからトップですが、課題というのは、組織の中で課題として捉えておるわけですし、それをないがしろにしていくわけではございませんので、そんなのはどこの一般企業でもみんな一緒ですよ。一般企業でも。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） これまで公共施設や公有財産の運用または手続等において、不適切な運用が確認されてきました。

この件について、令和6年9月議会において私は一般質問を行いました。その際、副市長はそういうところがあるかどうかは一度きちんと精査して、適正かどうかの判断をしていきたいと思いと答弁しています。その後の12月議会では、手続ができていない公共施設または公有財産についてどこがあるのかお聞きしたところ、多くの場所についてお答えがありました。そして最後に、これ以上ないということによりよろしいでしょうかと念を押したところ、いきいき広場内を使用しているエヌ・エフ・ユーさんへの行政財産の目的外使用の件について答弁がありました。しかし、その後も適正な手続を踏んでいないと思われるところが発覚しております。

これ組織として非常に問題であると考えられますけど、市長どうですか。副市長がやりますって言いながら、9月にやりますって言いながらいまだにできてないんですよ。どうですか、これ市長、組織として。

○議長（神谷直子） 副市長。

○副市長（深谷直弘） 今ずっとおっしゃっていただいたように、過去の議会でも私はそういった発言を申し上げました。そして、全体組織の中でそういったところがないか、過去からのことも洗い出して一度調査をしてくれという話をして、今いきいき広場のエヌ・エフ・ユーさんの部

分占用の問題を出されましたけど、やはり当時いろんないきいき広場も、そのときの議会でも説明をしておると思いますが、事情がありました。そういった市の方針や政策に基づいて許可をして、それがたまたまそういった形でずっとなおざりになっていたということでございますので、何も全くそういったところを無視をしてそのままやってきたということではございませんで、一つ一ついかないところは、きちんとそれを直していくってことで今それも方針も変わっておりませんし、今もこの間御指摘をいただいた部分については、きちんと手続をするなり、相手方もあることですので、そういった申し出をしていただくというようなことを進めております。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 今も多くのところが手続進んでおりません。一つ一つ聞きたかったんですけど、市長が長々と御答弁されたので時間がありませんので、次行きます。ちょっとこれはまたにします。

市役所の庁舎機能、いまだこの本庁舎といきいき広場の2か所に分かれています。市長はこれまでの答弁において、今後DXが進むことで市民が市役所に来なくても手続等ができることから、今後集約されるという説明がありました。いまだ集約される気配ありません。リース物件である市役所のリース期間は20年です。20年間のどの時点で集約されるという予定だったんですか、市長。どうですか、これ市長に聞きたいんですけど。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 20年間のどこでっていう、分かりますか、議員さん、御自分で。私どこでやれるとかいつやられるとかいうことを申し上げたこと一回もありませんし、それ常識的に考えてその質問はおかしいですよ。そんなこと分かりますか。じゃドローンはいつ飛ぶんですか。自動車型のドローンとか、空飛ぶ自動車なんか万博で出るって言ったけど、全然できませんよね。そういうことなんですよ。新しい技術って日進月歩で明日変わるかもしれないし、AIでも登場した途端、大変な産業になりましたよね。こんなこと誰が予測できましたか。

ただ、ただですね、市民の方が間違いなく行政の仕事は、市民の方が自宅でできるとか身近なところでできるほうがいいに決まってるんですよ。それは我々はその将来としてはそういう姿を描いていく必要があるという意味で私は申し上げてるんですよ。庁舎を複合化するとか合わせるとかってそんな話じゃないんですよ。そんな話はしたことありません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 2か所に分かれることを聞いたときそういうふうにおっしゃいましたよね。

〔「言っていないよ。」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） おっしゃってますよ。

〔「議長、市長」と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） 市長。

〔「あのですね、まだ私聞いてます。じゃあ質問変えますけど。今質問しています、まだ私。」

と呼ぶ者あり〕

○議長（神谷直子） そうなんですか。13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 私まだ質問の途中ですので切らないでください。

じゃあこの不便な状況でずっと20年間やっても致し方ないという考えですよ。確かに状況は変わりますよ。今マイナンバーカードの更新手続、本人が来庁しなければできないことです。市役所の業務はますます増えてます。私はこの庁舎に集約も不可能だし、前の庁舎より、前の庁舎それ以上のものが必要だったと考えてました。非常に狭い。こんな庁舎で、私は、職員も不便を感じてるし、市民からもいろんな声をいただいています。あっちに行ったりこっちに行ったりしなきゃいけない。だけど市長は、いやいやいずれDX進むからいいんだよって説明されてましたよ。だけど9年たってるんですよ。結構です。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 何を言ってみえるか全く分からんもんですから。分かりましたか、皆さん。何が質問で何を言ってみえるか私にはよく分からんのですが、市民があっち向いたりこっち向いたりするって、広かったらそうですけど、狭かったらそんなことないですよ。狭いからあっち向いたりこっち向いたりなんてことはあり得ないと思いますし、職員が不満言ってます、何を根拠ですか。聞いたことないのですが、私。狭いから困るって職員が言ってるの。どこが根拠ですか、教えてください。反問権です。

○議長（神谷直子） 13番、まず質問に答えてください。先ほども反問権を使われた方お見えでしたが、倉田議員は一度も答えておりませんので、まずはお答えください。

13番。

○13番（倉田利奈） いや、ちょっと何かよく分かんないんですけど、別に私は職員がそう言ってるって言いましたか。

〔「言ったじゃん。」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 実際でも聞いてますよ、それは。

〔「だから誰が。」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 市民からも聞いてます。誰がってなぜ言わなきゃいけないんですか。そんなこと言ったらどうなるんですか。どうなるんですか。

〔「どこが狭いってこと…」と呼ぶ者あり〕

○13番（倉田利奈） 狭くないという認識なんですよ。

○議長（神谷直子） 質問時間残り3分です。

○13番（倉田利奈） そして、じゃ全然狭くないんですよ、職員は。そういう声も市長の元には届いてないんですよ。そのことのほうが私は残念です。そういった職員の小さな声が届いてな

いってことが残念です、私は。

吉岡市長が解決しなくてはならなかったと考える問題はまだまだ私あります。

平成27年に発表された公共施設総合管理計画によると、一丁目一番地に行わなければならなかった吉浜北部保育園の大規模改修については、平成31年大規模改修となっていました。7年間も計画を先送りにし、いまだ本体工事始まっておりません。旧高取幼稚園は6年も前に機能移転し、跡地についてはJAと協議をしていると言いつついまだ解決できていません。高取農業センターも利用できなくなってから放置されていますし、旧福祉作業所サロン赤窯など廃墟となっている公共施設については全く放置ではありませんか。こんなに多くの課題を解決せず、引退を表明されることは、あまりにも私は無責任であると考えております。

多くの問題を積み残していくことに対する市長の見解を最後、お答えください。2分ありますのでどうぞ。

○議長（神谷直子） 副市長。

○副市長（深谷直弘） 今、公共施設の問題を様々な形でおっしゃいましたけど、公共施設って、私ども平成23年に公共施設の白書をつくって、それはまだ国が発表する前から先駆的に市長の方針で取組を始めております。

今、いわゆる廃墟になったまま使われてない施設がある、計画よりも何年か遅れたっておっしゃいますけど、すごい息の長い戦略なんですよ。これ長い一生に例えたとき、100年の計ぐらいの長いスパンだと思います。その中で、そういったときは必ずあるじゃないですか。どこだつてそのまま放置しないかん財源的な問題もあるだとかそういうところを含めて、きちんと計画に基づいてやれるところから前に進めていく。だから学校は子供たちのためにということで一丁目一番地で手がけてるじゃないですか。

全くそういったことを理解せずに、そういったその一部の部分だけをつつくようなことを発言でおっしゃる。非常に不愉快です。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） 市長、全く同じお考えでよろしいですね。最後、そこだけ確認したいと思います。

○議長（神谷直子） 市長。

○市長（吉岡初浩） 答えるべき内容がありません。

○議長（神谷直子） 13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） はい、以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（神谷直子） 以上で、通告による質問は終了いたしました。

これより関連質問を許します。質問は、1人1問、5分以内といたします。

なお、関連質問ですので簡潔にお願いいたします。

4番、杉浦議員。

○4番（杉浦康憲） 今の13番議員さんの質問についてです。

公共施設の管理計画という話が度々出てきましたが、私の認識では過去の計画の時点でやったやらないという話がありました。でももちろん議決されてない計画ですから当然、財政や時代背景を含めて変化していく柔軟性のある計画だと思いますが、そういった認識でよろしいのかお答えください。

○議長（神谷直子） 総務部長。

○総務部長（杉浦崇臣） 議員おっしゃるとおりでございます、あくまでも計画は計画でありまして、その後やっぱりその時代時代で当然変わることもございます。その時々適切なやっぱり判断をした上で変更等も行っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（神谷直子） ほかに。

13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） マイクがつかないです。

○議長（神谷直子） マイクお願いします。

13番、倉田議員。

○13番（倉田利奈） すいません。今1分たっちゃったんで時間戻してもらっていいですか。時間戻していただいてもいいですか。

○議長（神谷直子） 時間を戻していただけますか。

はい、どうぞ。

○13番（倉田利奈） 4分になってます。

○議長（神谷直子） あれ、どうぞ。

○13番（倉田利奈） ありがとうございます。

昨日の9番長谷川議員の質問で中期財政計画のお話がありました。今、長期財政計画っていうのがちょっと作り方が変わってきて、年度末、当初予算も含め、前年度の決算も含め、非常にこと細かく長期財政計画、毎年毎年書き換えられております。

その上で中期財政計画ってどうやってつくるんだろうと私あれから考えたんですけど、いやこれ以上のものはつくれるのかなと思ったんですね。逆に、また別で中期財政計画をつくってその数字が違っていればそれはそれで問題だと思うので、いろいろ考えたところ、結局、長期財政計画の例えば5年分を中期財政計画でつくるとなれば、長期財政計画の1年から5年分を抽出するだけになっちゃうのではないかと思うんですね。

以前、昨日の答弁でも、長期財政計画ができたとき、中期財政計画を包含している、中期財政計画を包含してるから必要がないからやめたっていうことがあったんですけど、結局何か同じことになるんじゃないかと思うんですね。その辺がちょっと私よく理解できなかったんですよ。

つくとしたらどうやってつくるのかなって。結局同じように抽出するだけであれば、それは職員の負担にもなりかねませんので、そのあたりのお考えをお聞かせいただきたいんですけど、お願いいたします。

○議長（神谷直子） 総務部長。

○総務部長（杉浦崇臣） 昨日も御答弁させていただきましたように、まだ推計方法等も検討はまだしていません。これから一からつくっていかうというふうに考えております。

ですので、昨日の9番議員、長谷川議員の質問に対して今現状の考え方を述べさせていただいたというわけでありまして、今後それは、昨日の答弁の最後のところで、今後その長期財政計画と中期財政計画の位置づけを整理して今後再編をしていきたいというふうに考えを申しました。これからそれはつくり上げていくと。ですので、今の考えがつくり上げていく中で当然変わっていくこともあります。もしかしたら中期財政計画だけで、長期財政計画をもう廃止してもいいんじゃないかということも今後起きてくるかもしれませんので、その辺は今後考えていく中でゆっくりとじっくり考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○議長（神谷直子） ほかに。

9番、長谷川議員。

○9番（長谷川広昌） 先ほど一般質問にあった13番議員の関係で質問したいんですけども、私も市民の方の要望があれば全て実現したい、かなえていきたいという思いがあります。

そんな中で13番議員は、いつときたりとも10億円を切ってはならんと…

〔「そんなこと言ってないんだけど。」と呼ぶ者あり〕

○9番（長谷川広昌） 財政調整基金が。そういうことをおっしゃっている。そんな中で今日、学校の給食費、これを補助したりとか、シャワーをつくらせてあげたらどうか、庁舎が狭い、もっと広くしたほうがよかった。財源がこれどんどんどん使われていくわけですね。私も財源があるのであれば、東京都みたいに財源がたくさんあるのであれば、全て実現していきたいと考えているんですけども、そんな中で財政調整基金が10億円、いつときたりとも切っちゃいけないというふうに主張している方が、そういうことで財源を使っていくというふうな質問があって、私もいろいろ考えてどうしたら実現できるんだろうっていつも考えてるんですけど、そういうことが本当に実現できたらいいなと思うんですけど、今のこの高浜市の財政の中で実現できるのかどうか、これを当局にお尋ねしたいと思います。

○議長（神谷直子） 総務部長。

○総務部長（杉浦崇臣） 長谷川議員がおっしゃるとおり、当然、財政調整基金はできればあればあったほうが、これはどこでもいいというのは間違いないです。

ただ、その中で何とか確かに10億円は堅持しようというふうで取り組んでおります。ここ数年ですね。でもその中でどうしてもやっぱり市民サービスを低下させてはいけません。でもやっぱり

子供たちのためにやらないといけないことはやらないといけないですね。

そういったことをやっぱりそのバランスを考えた上で、どうしてもやっぱり10億を切ってしまうことも中にはあります。ただ、できれば切らないようにやっていきたいと思ってます。その中で13番議員は、要は不交付団体だからいけないとか、何で交付団体にならないだとか言われます。いやでも、基準財政需要額と基準財政収入額の考えがあって、それで高浜市も交付団体になれるのであればなりたいたいと思ってます。でも、もしなろうとしたらどれだけの財源をプラス、その基準財政需要額に参入できるための事業をどれだけやらないといけないか。それやったら10億円なんてすぐなくなってしまう。

〔「もういいです」と呼ぶ者あり〕

○総務部長（杉浦崇臣） 財調なくなっちゃいますね。それは長谷川議員もよく理解していただけたらと思ってます。

だからそんなことを言われてる方ですので、どこまで本当に行政、市も真剣に聞いていいかどうかというところなんです。ということでよろしくお願いします。

○議長（神谷直子） ほかに。

〔発言する者なし〕

○議長（神谷直子） ほかに関連質問もないようですので、以上で関連質問は終了いたしました。

以上をもって、本日の日程は全部終了いたしました。

再開は6月13日午前10時であります。

本日はこれにて散会といたします。御協力ありがとうございました。

午後0時3分散会
